

「なんもくの花」を買出人や買参人へPR！ ～FAJマルシェin大田市場 へ南牧村花卉生産組合員らが出店～

南牧村花卉生産組合では、大田市場仲卸通りで開催された「第9回FAJマルシェ2017summer」に出店し「なんもくの花」のPR販売を行いました。2回目となる今年も、現在最盛期を迎えている品目を中心に、行き交う買出人や買参人などへ売り込みを行い、販路拡大や更なる知名度向上に向けて産地PRを行いました。

第9回FAJマルシェin大田市場仲卸通り2017summer

- 日時／7月14日(金) 5:00～9:00
- 場所／大田市場花き棟仲卸通り
- 主催／(株)フラワーオークションジャパン
- 協力／大田市場花き部仲卸協同組合
- 内容／

大田市場に入場している仲卸の店舗ごとに設けられた産地ブースにて、各産地の生産者やJA担当者等が自ら花材を市場関係者（買出人や売買参加者など）に対して売り込みや販売を行い、産地PRや販路拡大を図る。

- 出店（参加産地）数／29産地（うち、本県から2産地）

アナベル、リシマキアが人気！今が旬の「なんもくの花」の魅力を生産者が自らアピール

大田市場仲卸通りでは早朝5時から威勢の良いかけ声が聞かれ、9回目となるFAJマルシェが開催されました。北は山形、南は沖縄まで全国各地の花き生産者が仲卸通りのブースに自慢の花材を並べ、早朝からにぎわう買出人や買参人など市場関係者へPR販売を行いました。

豊富な品目数が特徴でもある南牧村花卉生産組合では、現在旬を迎えているヒペリカムやリシマキアを中心に販売ラインナップを揃え、それらの特徴や使いやすさなどを丹念に説明しながら販売にあたりました。生産者5名の他、地域おこし協力隊、村役場、県西部農業事務所の職員も店先に立ち一丸となってPRが図られました。

買出人から最も人気があったのは、しっかり咲かせ純白となったアナベル、そして涼しげな印象が特徴のリシマキア（写真）です。リシマキアは最後まで咲ききることや、茎が固く使いやすいという特徴をアピールポイントとして販売につなげました。



仲卸通りで行われたFAJマルシェ



リシマキア



「なんもくの花」出店ブース

- ※「なんもくの花」販売品目ラインナップ
アナベル／リシマキア／ヒペリカム
スターチス／シマススキ／マウンテンミント

高齢化率全国1位の村でも活気は十分！花き栽培が南牧村を盛り上げる

全国一の高齢化率で知られる南牧村では、生産組合を中心に花の栽培が盛んに行われ、「なんもくの花」として首都圏を中心に花き市場への出荷も行っています。村の基幹産業である農業の中でも、特に花きはその生産や組合活動が活発に行われ地域振興対策としても位置づけられ、近年は都内花き市場でのPR活動や新規担い手の発掘などを積極的に行っています。一昨年からは市場展示や販売イベントへの参加を本格的に実施しており、また更なる品目導入を行うなどその生産意欲は他の花き産地に勝るとも劣らず、今後の活躍が期待される産地です。

このほか、同会場では前橋市粕川町にある(株)赤城M'sローズも出店しており、同社の代名詞でもあるボリューム十分のバラ「アヴァランチエ+」を中心に、染料で染めた青や緑のバラを販売しPRを行っていました。



(株)赤城M'sローズの販売ブース



「なんもくの花」紹介リーフレット